



科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号															
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目															
					1. 知識・理解	2. 技能・表現	3. 思考・判断	4. 観・評価	5. 統合的能力	1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	2-4	3-1	3-2	4-1	4-2	5-1
20UFNA1005	基礎化学	1	人の健康管理に携わる管理栄養士になるために必要な専門科目を学んでいくにあたり、高校までに学習した化学の知識を無理なく発展的に広げ、化学現象の背後にある原理の理解や論理的に考えるための基礎知識を身につける。	基本的な化学の知識を分かり易く見直し、さらに物質の有機化学的な理解を目標とすることで、食物栄養に関わる様々な物質の構造や特徴が説明できるようにする。	○	◎				○										
20UFNA1006	基礎化学実験	1	管理栄養士に必要な化学の知識について、実験を通して学ぶ。また、実験およびレポートを通じて、理論的思考、基本的な実験技術、レポートの作成方法を身につける。本科目は、食品衛生監視員、食品衛生管理者の任用資格認定に必要である。	実験において必要なマナー、器具の使い方、試薬の作製方法、基本的な実験操作、読みやすいレポートの作成方法を身につける。		○	○	○	○	◎	○	○	○							
20UFNA1007	栄養学の基礎	1	栄養学を学ぶ上での入り口に位置する科目であり、栄養に関する基礎的事項を幅広く取り扱う。栄養とは生物が生命活動を維持するうえで必要な物質（栄養素）を外界から取り入れ利用する現象である。栄養に関する基本的事項である栄養の概念、栄養学の歴史、栄養素の構造と機能、摂食行動、消化・吸収と栄養素の体内動態、および3大栄養素（糖質、脂質、タンパク質）の利用について十分な専門的知識を修得することを目的とする。	栄養学を学ぶ上での知識基盤の基になる栄養の概念および摂食行動に影響する因子を理解し、栄養素の構造と生体の働き（消化・吸収、代謝）との関係を把握し、これらの知識を活かして健康の保持・増進、疾病の予防・治療が図れる基礎的能力を修得する。	◎	○			○		○		○							
20UFNA1008	食品素材学	1	食品素材学では食品素材の分類を学び、個々の食品素材についての特徴を理解する。また、調理学、調理科学、食品学、食品機能学で学ぶ内容の礎となるように、知識の修得を目指す。	本科目で得た知識が2年次以上に履修する科目間を繋げるようになることを目標とする。食材に興味を持ち、日常から食材を眺めるようになる。		◎	○			○	○	○								
20UFNA1009	微生物学	1	本講義では、私たちの暮らしと微生物との関係についての知識を習得する。特に、微生物に関する一般的知識、食品と微生物との関係、健康と微生物との関係などについて学び、医療機関や福祉施設のみならず、食品関連の研究所などで働く管理栄養士に必要な知識を習得することを目的とする。	本講義で習得した微生物学の知識を活かし、医療機関や福祉施設のみならず、食品関連会社や研究所等、微生物学の知識が必要とされる管理栄養士の能力向上を目指し、積極的に社会で活躍できる人材育成を到達目標とする。		◎	○	○	○	○		○	○							
20UFNA1010	食文化論	1	世界各地の食文化の事例を通じて、多様な文化の生活習慣を学ぶとともに、その背後にあるものの見方・考え方を理解する。自らの食文化を絶対化せずに、異文化を柔軟に受けとめる姿勢を養い、多文化共生時代に必要な基礎知識を身につける。	世界をみるための多様な視点の存在を理解し、想像力を養い、自ら考え、積極的に学び、広い視野からものごとを見る素養をつける。自分の考えかた・習慣・常識を絶対視せず、栄養指導を行う際にも、異文化を背景にもつ多様な人々の価値観を尊重し、これに寄り添った形で食事メニューを考え、提言できる能力を養う。	◎	○	○	○	○					○						





科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号																
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目																
					1. 知識・理解	2. 技能・表現	3. 思考・判断	4. 読解・語彙	5. 統合的能力	1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	2-4	3-1	3-2	4-1	4-2	5-1	5-2
20UFNA2023	環境科学	2	健康の保持増進には2つの面がある。1つは栄養成分の摂取、もう1つは抗栄養成分の摂取抑制である。人の健康を害するものは環境と強く関連しており、地球規模での環境汚染、環境破壊の進行状況について認識を深め、人の健康や食料生産に害を与える環境問題を解決するには何をすべきか、自分たちに何ができるかを考え、理解することを目的とする。	自分が存在する社会の環境について、これまでの歴史経過並びに現状を知る。それにより人間を含めた生物にとって、環境の悪化を防ぐことがいかに重要であるかを理解する。地球の生態系を守り、健康を守るには、私たちが何をすべきについて実践的に考える能力を身につける。	◎	○		○	○				○	○							
20UFNA1024	社会福祉概論	1	現代では社会福祉の領域は非常に広範囲にわたっており、その内容も多種多様で、私たちの生活のさまざまな面にかかわっている。このような社会福祉の根底を貫く原理を理解するとともに、社会福祉についての基本的な理解と知識を習得することが目的である。	現代社会福祉の理念が、経済の発展を背景に人権思想の深まりの中で創り出された、人類の叡智の結晶であることを理解する。さらに、日常生活の中で自分たちが関わる社会福祉制度についての知識を得る。	◎			○	○							○	○				
20UFNA1025	解剖生理学Ⅰ	1	「食と健康の関係」を理解するためには、ヒトの体の仕組みをきちんと理解することが必要となる。解剖生理学は、管理栄養士に必要な知識の基本となる科目で、正常な人体の構造と機能を理解し、どのように維持されているかを栄養との関係から考えられるようになることを目的としている。	総論として、ヒトの体の構成要素と生命の維持に必要な機能を理解する。各論として、消化器系、呼吸器系、循環器系の構造と機能を理解する。	◎	○															
20UFNA2026	解剖生理学Ⅱ	2	「食と健康の関係」を理解するためには、ヒトの体の仕組みをきちんと理解することが必要となる。解剖生理学Ⅱでは、解剖生理学Ⅰに引き続き、正常な人体の構造と機能を理解し、どのように維持されているかを栄養との関係から考えられるようになることを目的とする。	解剖生理学Ⅰに引き続き、各論として、泌尿器系、運動器系、神経系、内分泌系、生殖器系、血液・免疫系の構造と機能を理解する。	◎	○															
20UFNA1027	解剖生理学実習	1	管理栄養士にとって必要な「身体の構造と機能」についての知識を身につけるため、自分の身体組成や身体機能の測定や評価を行うとともに、身体が様々な細胞・組織・器官から成り立ち身体が維持されていることを組織模型や標本の観察を通じて理解することを目的とする。	ヒトを構成する細胞、組織の構造と機能を理解する。自分の身体を構成する組織の適正な比率を理解する。		○											◎				
20UFNA1028	生化学Ⅰ	1	本科目は管理栄養士課程に必要な基礎専門科目の人体の構造と機能の分野に分類される。本科目は栄養関連科目等の専門科目を理解するための基本科目であり、既修得の基礎生物化学および本科目によって栄養素の代謝を体系的に理解し、代謝に関する知識を体系化することを目的とする。	2年次専門科目の学習に必要な生化学の基礎知識の修得と理解度の向上を到達目標とする。	◎	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○					









科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号														
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目														
					1.知識・理解	2.技能・表現	3.思考・判断	4.観・評価	5.統合的能力										
					1-1:1-2	2-1:2-2:2-3:2-4	3-1:3-2	4-1:4-2	5-1:5-2:5-3:5-4										
20UFNA2049	応用栄養学Ⅲ	2	成人期、更年期、高齢期の加齢による身体変化に応じた栄養ケア・マネジメントのあり方と、運動・スポーツ時、ヒトの恒常性に異常を及ぼす特殊環境における疾病と栄養との関連性について理解する。年齢、活動状況や環境に応じた栄養アセスメント、食事・栄養補給法、評価までの栄養ケア・マネジメントができる基本的能力を身につける。	成人期、更年期、高齢期の生理的变化を理解し、栄養ケア・マネジメントの基本的な考え方を修得する。また、身体活動・運動、ストレス、高温・低温、高圧・低圧などの特殊環境条件下における生理的变化を理解し、栄養ケア・マネジメントの基本的な考え方および実践の方法を修得する。	◎	○					○	○							
20UFNA3050	応用栄養学実習	3	妊娠、発育・発達、加齢など人体の構造や機能の変化に伴う栄養状態や心身機能に応じた栄養アセスメントの基本的な方法および健康増進、疾病予防に寄与する栄養素の機能など健康に対するリスク管理の考え方や方法を習得する。	栄養状態や心身の機能に応じた栄養ケア・マネジメントの基本的な考え方を理解する。食事摂取基準策定の考え方や科学的根拠について理解習得する。各ライフステージ、ライフスタイルにおける栄養状態や心身機能の特徴に基づいた栄養ケア・マネジメントを修得する。		○	○	◎	○	○	○	○							
20UFNA2051	栄養教育論Ⅰ	2	健康・栄養状態、食行動、食環境等に関する情報の収集・分析、それらを総合的に評価・判定する能力を養う。 さらに、対象に応じた栄養教育のプログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントできるよう健康やQOLの向上につながる健康・栄養教育の理論と方法を修得する。	的確な栄養アセスメントに基づく栄養教育の企画、実施、評価の総合的なマネジメントを行う能力を高めることを到達目標とする。	◎	○			○	○									
20UFNA2052	栄養教育論Ⅱ	2	健康・栄養状態、食行動、食環境等に関する情報の収集・分析を行い、それらを総合的に評価・判定する能力を養う。さらに、対象に応じた栄養教育のプログラムの作成、評価を総合的にマネジメントできるよう健康やQOLの向上につながる健康・栄養教育の理論と方法を修得する。	教科書を基本とし、改正された管理栄養士養成カリキュラムおよび国家試験のガイドラインにライフスタイル・ライフステージ別の栄養教育の方法と理論を到達目標とする。	◎	○	○				○								
20UFNA3053	栄養教育論Ⅲ	3	生活習慣病をはじめとする多くの疾患の予防と治療のために、現行の食習慣、食行動を変容させる必要があるクライアントの援助に必要な、心理・行動学的理論を学び、その基本的技術を修得する。	栄養教育は、クライアント自身が自らの食行動を選択・決定することを援助していくプロセスである。それには指導や助言のみならず、これまでと、これからの生き方への配慮、顕在化する心理的問題への対応が求められる。心理・行動学的理論および、カウンセリング理論を学び、実際の問題を検討する。それら技法を使う際の留意点を理解する。	◎	○				○	○								
20UFNA2054	栄養教育論実習Ⅰ	2	健康・栄養状態、食行動、食環境等に関する情報の収集・分析を行い、それらを総合的に評価・判定する能力を養う。	対象に応じた栄養教育のプログラムの作成、評価を総合的にマネジメントできる技術並びに食行動変容を踏まえた栄養カウンセリングの技法を修得する。	○	○	◎			○	○	○							
20UFNA3055	栄養教育論実習Ⅱ	3	健康・栄養状態、食行動、食環境等に関する情報の収集・分析を行い、それらを総合的に評価・判定する能力を養う。	対象に応じた栄養教育のプログラムを作成、評価を総合的にマネジメントできる技術並びに食行動変容を踏まえた栄養カウンセリングの技法を修得する。	○	◎				○	○								

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号															
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目															
					1. 知識・理解	2. 技能・表現	3. 思考・判断	4. 読解・読能	5. 統合的能力	1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	2-4	3-1	3-2	4-1	4-2	5-1
20UFNA2056	臨床栄養学Ⅰ	2	傷病者の病態・病期や栄養状態の特質に基づき、適切な栄養管理を実施するために栄養計画の立案、実施、評価に関する総合的なマネジメントの考えかたを理解し、栄養評価・判定、栄養補給、栄養教育、食品と医薬品の相互作用、臨床栄養管理について習得する。	1. 傷病者と要介護者に対する臨床栄養の意義・目的を理解する。 2. 傷病者と要介護者への栄養スクリーニングと栄養アセスメントを理解し、栄養アセスメントによる栄養必要量の算定ができる。 3. 栄養補給法の種類を知り、決定法が立案できる。 4. 各種疾患別（肥満と代謝疾患、内分泌疾患、消化管疾患、乳幼児・小児期疾患、妊産婦・授乳婦の疾患）の身体状況や栄養状態を理解し、それに応じた栄養管理の基本を述べるができる。	◎	○			○											
20UFNA2057	臨床栄養学Ⅱ	2	臨床（病院、施設など）において、病いと関わっている患者さんの幸せのために、栄養になにができるのか、を自分の頭で考えられる力と情報を取り入れる能力の獲得を目指す。	栄養の基礎力である「解剖学」、「生理学」、「生化学」の3つの学問を、臨床に実際に使える実力を獲得するため、ひとつのテーマに対して、基本的には2コマをあて、最初の1コマを基礎栄養学であるこれら3学問の基礎学力の習得と応用に充てる。 さらに2コマ目の臨床では、その栄養基礎学の3学問を臨床栄養にいかに使えるか、の実例を、予めゲットファイルで配布した空欄を、双方向で埋め、考えていく。 その結果、自己学習でテーマごとにキーワードをピックアップし、そのキーワードの意義と限界を自分で説明でき、実際の患者さんにおける意味や栄養サポートの導入部を展開できる。	◎	○					○									
20UFNA3058	臨床栄養学Ⅲ	3	傷病者の病態・病期や栄養状態の特質に基づき、適切な栄養管理を実施するために栄養計画の立案、実施、評価に関する総合的なマネジメントの考えかたを理解し、栄養評価・判定、栄養補給、栄養教育、食品と医薬品の相互作用、臨床栄養管理について習得する。	1. 糖尿病食品交換表の使用方法を理解し、単位計算、食品構成、献立作成ができる。 2. 栄養管理計画書は、栄養状態の評価、適切な栄養補給法を理解し立案できる。 3. 栄養カルテは、POSに基づきSOAPに沿って作成できる。 4. 各疾患（摂食嚥下障害、身体・知的障害老年症候群、骨格疾患、循環器疾患、脳血管疾患神経疾患・筋疾患、摂食障害呼吸器疾患血液系の疾患、免疫・アレルギー疾患）の特徴を理解し、栄養・食事療法を実施するための具体的な方法を述べることができる。	◎	○							○							
20UFNA3059	臨床栄養学Ⅳ	3	傷病者の病態・病期や栄養状態の特質に基づき、適切な栄養管理を実施するために栄養計画の立案、実施、評価に関する総合的なマネジメントの考えかたを理解し、栄養評価・判定、栄養補給、栄養教育、食品と医薬品の相互作用、臨床栄養管理について習得する。	1. 各疾患（消化器系疾患、手術・周術期患者、腎・尿路疾患）の病態や特徴を理解し、傷病者への適切な栄養管理計画が立案できる。 2. 薬（医薬品・健康食品・サプリメント）と栄養・食物の相互作用を理解する。 3. ターミナルケアの目的、家族を加えたチームアプローチの対応によるQOL向上の必要性を理解する。	◎	○								○						
20UFNA3060	臨床栄養学実習Ⅰ	3	臨床栄養学を習得後、各種計測による栄養評価・判定方法やベッドサイドの栄養教育などについて実践実習を活用し体得する。	1. 栄養アセスメントの実際を知り、患者とのかかわり方を身につける。 2. ロールプレイによる模擬栄養食事指導を通しては、臨床栄養評価・必要栄養量算定・栄養ケアプランの作成と実施・モニタリング・カルテの記述など病態に応じた栄養管理計画が立案できる。 3. 看護・介護実習を通して傷病者・要介護者への基本的な対応方法を習得し、チーム医療における多職種間連携を理解する。	○	○					◎			○						
20UFNA3061	臨床栄養学実習Ⅱ	3	臨床栄養学を習得後、特に生理的な特徴や栄養代謝の異常を理解した上で、身体状況（口腔状態を含む）や栄養状態に応じた具体的な栄養管理の方法、医療・介護制度やチーム医療における役割について実践実習を活用し体得する。	①病態別に、栄養管理が計画できる。 ②病態別に適切な献立を作成し、調理ができる。 ③栄養管理計画、栄養指導報告書、カルテなどに正しく記録できる。	○	○					◎			○						



科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号																						
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目																						
					1. 知識・理解	2. 技能・表現	3. 思考・判断	4. 読解・読書	5. 統合的能力																		
					1-1:1-2	2-1:2-2:2-3:2-4	3-1:3-2	4-1:4-2	5-1:5-2:5-3:5-4																		
20UFNA3067	給食経営管理実習	3	学内での大量調理実習の体験を通じて、特定給食施設における給食の運営を栄養管理・衛生管理・作業管理・経営管理・施設設備管理等で総合的に判断しマネジメントする能力を養う。また、臨地実習Ⅰ（学外実習）に向けて学生個々人が、スキルを磨く科目である。	特定多数人を対象とした食事計画に基づき、給食の食材料準備から大量調理、食事と情報の提供、摂取量の確認と後片付けの一連の作業の実際を体験し習得する。	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○							
20UFNA4068	管理栄養総合演習Ⅰ	4	演習Ⅰは、ヘルスプロモーション演習、管理栄養士能力向上演習の2部から構成されている。いずれの内容も管理栄養士を目指す学生にとっては、必須の知識および技術である。演習を通して、これら管理栄養士に必要な知識および技術の再確認を図るとともに、管理栄養士として統合された能力の向上を目指す。	ヘルスプロモーション演習では、身体および栄養摂取状況等に関する客観的なアセスメント能力とそれに基づく健康増進指導技術を修得する。管理栄養士能力向上演習では、管理栄養士に必須とされる知識の復習を進め、その知識の活用へむけて統合する。	○	○	○	○											○	○	◎	○					
20UFNA4069	管理栄養総合演習Ⅱ	4	演習Ⅱは、管理栄養士能力向上のための演習のみから構成される。前期の管理栄養総合演習Ⅰに引き続き、管理栄養士に必要な知識および技術の再確認を図るとともに、管理栄養士として統合された能力の向上を目指す。	前期の演習Ⅰに引き続き、管理栄養士能力向上演習では、管理栄養士に必須とされる知識の復習を進め、その知識の活用へむけて統合する。	○	○																○	○	◎	○		
20UFNA3070	臨地実習Ⅰ	3	管理栄養士・栄養士の指導のもとに、社会福祉・児童福祉施設等で校外実習（1週間）を行い、施設の特徴および高齢者、乳幼児・児童等の食事内容の特徴について習得する。	①各施設の設立理念に基づき栄養部門が目標遂行に向けて行う業務全般について理解し、部門業務がどのような経営ビジョンによって運営されているかを学ぶ。 ②大学で学んだ給食経営管理の知識や技術が、実際の給食現場においてどのように生かされているかを学習する。 ③栄養管理を実施するに当たり、給食業務の合理化や標準化の観点からどのような工夫や技術が活用されているかを体験しながら学習する。 ④対象者満足のための適時・適温配膳が、どのような作業管理や機器、備品を含めた設備管理のもとで行われているかを学ぶ。																			◎	○	○	○	
20UFNA4071	臨地実習Ⅱ	4	栄養の側面から、傷病者の病期・病態や栄養状態の特徴に応じた適正な栄養管理について学ぶ。	実践に必要な専門的知識、技能、能力は管理栄養士の実践活動現場である病院の仕事上での課題発見や問題の解決など実習を通して習得、体得する。 ①実習では、管理栄養士に課せられている多種多様な専門分野の基本的能力を養う。 ②管理栄養士に求められる知識、技能、洞察力、考察力、態度、言葉遣いなどの総合能力を実習を通して養う。チーム医療の必要性、管理栄養士と他職種との連携、患者とのコミュニケーションのとり方などの実践的能力を養う。																			◎	○	○	○	
20UFNA4072	臨地実習Ⅲ	4	公衆栄養学の臨地実習においては、保健所および保健センター等の活動の実際並びに栄養行政の概要を把握・体得することを目的とする。臨床栄養学の臨地実習においては、栄養評価に基づく栄養ケア計画の立案・実施・評価の一連の流れを体験学習する。	公衆栄養学実習は、予防栄養の重要性を理解し、健康の保持増進、疾病の一次・二次・三次予防のための栄養教育、地域における健康実態の把握・分析など一般住民に対する健康増進活動・地域保健活動に必要な能力を養うことを目標とする。臨床栄養学実習は、栄養・給食関連マネジメント能力を養う。																				◎	○	○	○



科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号														
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目														
					1. 知識・理解	2. 技能・表現	3. 思考・判断	4. 読解・読能	5. 統合的能力	1-1:1-2	2-1:2-2:2-3:2-4	3-1:3-2	4-1:4-2	5-1:5-2:5-3:5-4					
20UFNA3081	卒業研究方法論	3	各研究室における研究テーマの意義の理解と、テーマに即した研究手法習得のための予備実験・予備調査、収集したデータの処理・解析方法等を演習形式で学ぶとともに、先行研究や関連する分野の論文講読等を行う技術を習得する。	自身の卒業論文研究テーマの設定、研究意義の確認、研究手法、データ解析方法等を習得し、卒業論文研究に取り組む準備を完成させる。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎
20UFNA4082	卒業論文	4	卒業論文研究テーマの実験・調査を通して、3年次までに習得した科目内容を理解するとともに、研究の意義、手法、解析方法等の専門知識を身につける。	研究テーマに基づき、問題抽出、仮設の設定、仮設の検証を行い、論理的な論文としてまとめることにより、問題解決能力を修得する。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎
20UFNA4083	卒業演習	4	何らかの理由により、卒業論文が選択できない場合に開講する。食物栄養学科において教育されている内容を中心に研究課題を設定し、実験または調査活動を通して、課題へのアプローチの仕方、研究法の選択能力、結果への考察力等を養う。	文献的な調査能力や情報活用能力の修得と、課題に対するアプローチ能力を通じて問題解決能力を修得する。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	
20UFNA2084	学校栄養教育・指導論Ⅰ	2	栄養に係る教育を実践するに足る基礎的知識および技能の修得を目指す。すなわち、近年の社会的背景、家庭環境の急激な変化による児童生徒の食に関する課題を把握し、食に関する指導の重要性や、栄養教諭としての使命や役割について理解する。また、実践上準拠すべき教育制度や、学習指導要領、食に関する指導の手引きの内容について基本的事項を理解する。また、食に関する指導の指導案作成や指導方法について具体的な技術を学ぶ。	(1) 食に関する指導の重要性や栄養教諭の果たす役割を理解し、明確な教員像を描くことができる。 (2) 児童生徒の食生活を取り巻く状況をふまえ、食に関する課題や問題点を挙げることができる。 (3) 学校給食の目標や、栄養や衛生管理の重要ポイントについて具体的に説明することができる。 (4) 食育教材として給食の献立を作成し、それを活用した指導を模擬的に行うことができる。 (5) 学校における食に関する指導の目標や学習指導要領上の食育の位置づけについて説明することができる。 (6) 児童生徒の食の課題に基づいた食育指導案を作成し授業を模擬的に行うことができる。 (7) 家庭、地域、関係機関と連携した食に関する指導の取り組みを例示することができる。	○	○		○		○	○	◎							
20UFNA3085	学校栄養教育・指導論Ⅱ	3	栄養に係る教育を実践するに足る知識の深化と技能の錬磨を目指す。「学校栄養教育・指導論Ⅰ」で修得した内容をさらに発展させ、学校における食育推進者として、児童生徒の食生活のアセスメントから学校における食育の全体計画、課題解決のための実践計画と指導、評価までを総合的に行う実践力を習得する。	(1) 学校における食育推進者としての栄養教諭の役割を説明することができる。 (2) アセスメントにより児童生徒の健康上の課題や食生活や食環境の問題を見出すことができる。 (3) 食に関する指導の全体計画を作成することができる。 (4) 学校給食を全体計画、年間指導計画に組みこみ、食に関する指導と連携した実施計画を立てることができる。 (5) 課題解決のための食に関する指導の模擬授業を実践し、ふりかえりにより改善案を作成することができる。 (6) 学校における食育の評価方法について説明することができる。	○	○		○		○	○	◎							
20UFNA3086	健康科学Ⅱ	3	健康で健全な生活を支えるには健康に関係する様々な分野の連携が必要である。この理解を深めるために3学科がそれぞれの専門分野の特性を提供し、3学科の学生が共同で健康科学に取り組み、知識を深めることを目的とする。	3学科の学生が共同で一つの課題を演習方式で研究を深め、健康への取り組みの多様性と他分野との連携の重要性に気付くことを目標にする。	○	○		○	○	◎	○								

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号																					
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目																					
					1. 知識・理解	2. 技能・表現	3. 思考・判断	4. 読解・語彙	5. 統合的能力	1-1:1-2	2-1:2-2:2-3:2-4	3-1:3-2	4-1:4-2	5-1:5-2:5-3:5-4												
20UFNB1096	理系女性のキャリアパス設計論	1	本講義では、男女共同参画社会の実現、社会における理系女性の位置づけ、およびキャリア形成における支援制度や政策をテーマとした実習重視型の講義を行う。そして、受講者が目指すキャリアを明確化してキャリアパスを設計し、実践的なスキルを獲得することで、社会で主体的に活躍できるように支援することを目的とする。	①日本の男女共同参画の現状について、世界各国との比較から説明できる。 ②ライフイベント（出産、育児、介護）と仕事を両立しながら活躍している女性の講演から、多様な働き方があることを認識し、キャリアを継続するために利用可能な制度等に関する知識を持つ。 ③グループディスカッションや個人発表会を通して、コミュニケーション能力や発信力・傾聴力などに代表される「社会人基礎力」を身につける。 ④将来のキャリアパスをイメージし、具体的に組み立てることができる。															○	◎	○					
20UFNB1097	生命科学と倫理を巡る知性と感性	1	現代社会を支える科学技術の基盤となっている科学技術的思考法を学習する。哲学の考え方や倫理問題、研究開発などの講義を通して、探究心を向上させ、広い視野で実践的な思考態度を身につけることを目的とする。	①科学技術分野の基礎となる生命科学や情報科学の基本的枠組みを理解する。 ②哲学や倫理問題など一義的に正解のない問題に対し、自分の考えをまとめることができる。 ③発表討論会およびディスカッションを通して、自らの意見を的確に述べるとともに、他者の発表内容から多様な考え方に触れ、本講義で学んだ内容について深い洞察力や考察力を身につける。																○	○					
20UFNB1098	地域活性化システム論	1	地域の活性化に必要な知識、構造、問題点等を明らかにし、系統的に理解することにより、地域再生に必要な方策を考える能力を身につけることを目的とする。特に、関西地域の活性化に向けて、医療・医学、福祉、医工学・情報学分野でどのような取り組みが必要であるか、またどのような連携システムの構築が必要であるかを学習する。	①医療、福祉、教育、ICT（情報通信技術）など多分野からの地域活性化の実例を通して、地域活性化の方法論を理解する。 ②自分の居住地域の問題に関心を持ち、地域を活性化させるために必要なものを具体的に考えることができる。 ③総合討論における講師・受講生とのディスカッションにおいて積極的に発言し、自らの考えを的確に述べることができる。							○										○					
20UFNB3099	プレプロフェッショナル教育	3	近年の医・歯・薬学、工学・情報学の目覚ましい発展により、各分野を融合した医工学研究領域が新たな学問として脚光を浴びている。しかし、医学を理解した工学・情報学系の人材、工学・情報学系を理解した医療従事者は乏しいのが現状である。本科目では専門色が強く、かつ実習を取り入れた講義を行い、医工学領域の即戦力として活躍するために必要な知識を得ることを目的とする。	①専門科目では、臨床医工学・情報学の融合分野における最新の知見を学習し、各講義テーマと自らの専門分野・関心領域の知識とを結びつけて考えることができる。 ②共通科目においては理系（科学）英語の読み方・書き方および統計解析の考え方を学び、演習を通して研究をする上で必要となる基礎的なスキルを身につける。 ③実習では医療や福祉の現場を体感し、最新の機器等について理解を深めるとともに、講師とのディスカッションから研究倫理・職業観を養う。 ④本科目全体を通して、臨床医工学・情報学の融合分野への興味関心を喚起しながら自らが進む方向（分野）を考え、将来のキャリア形成の一助とすることができる。							○		○		○	○					○					
20UFNB1100	多職種協働グループワーク実践論	1	医療や福祉の現場において、高度な医療や全人的な福祉を実践するために、多様な専門職が協調しながら職務を遂行する「チーム医療」・「チーム福祉」の取り組みが求められている。将来、臨床医工学情報学の融合分野において、互いの専門性を理解しながら主体的に活躍するためには、コミュニケーション能力やリーダーシップ能力、課題発見・課題解決力などが必要である。本講義では、異分野の学生とのグループディスカッション・発表プレゼンテーションを通して、それらの能力を養い、協調的な学習から相互理解を深めるとともに、グループだからこそ生まれる新しい知見・アイデアを創造することを目的とする。	①学生間の相互理解と問題解決に向けた共通認識を持つために、自分の専門分野の知識を異分野の学生にもわかりやすく伝えることができる。 ②グループが1つのチームとして有機的に活動し、協調的な学習から異分野融合による新しいアイデアを創造することができる。 ③異分野の学生とのグループディスカッションおよびグループ発表会を通して、コミュニケーション能力や発信力・傾聴力などに代表される「社会人基礎力」を身につける。																	○	○	○	◎	○	◎